

## 第 11 回舞鶴市廃棄物減量等推進審議会 摘録

【日 時】平成 30 年 10 月 2 日（火） 午後 1 時 30 分～2 時 15 分

【場 所】市役所別館 6 階 大会議室

【出席委員】青山委員、足立委員、内海委員、尾上委員、木谷委員、品田委員、  
谷口委員、西山委員、森委員、山川委員  
(12 名中 10 名出席：有効に成立)

【事務局】市民文化環境部長 飯尾、環境対策室長 平野、生活環境課長 福田、  
清掃事務所長 橋本、リサイクル事務所長 村川、生活環境課主幹 田中

【傍聴者】2 人

### 1. 開会

### 2. 議題

#### (1) 答申（案）について

- ・第 10 回審議会で指摘のあった内容を事務局で修正し、あらためて答申（案）及び答申概要（案）について最終確認を行った。
- ・本案にて市長へ答申することとしてよいか諮り、異議無く承認された。
- ・答申書は、正副会長の 3 名が市長に提出することで一同了承。

#### 【委員の意見】

- (委 員) 次の時代を担う子供たちや若い人たちにしっかりと伝えていくこと、そして、その次の世代が新しい世代へ伝えてくれることを期待したい。  
公平な受益者負担の問題や、自分たちが出すごみについて、出す人が一定程度責任を持ち、考えを持って行動していかなければいけないと思うので、今後、有料化というのも大切な議題になってくると思う。
- (委 員) 行政に公的な負担を求めていくだけではなくて、私たち市民が市民としての責任をどのように果たしていくのか、市民としてもどれくらい負担を請け負えるのかと、これまでの議論を成熟させる形で今後の審議を盛り上げてほしい。
- (委 員) 住民の負担、つまりコストをかけてやることと、それに対するメリットや効果がどれだけのものかということ。さらには、負担をしなければならぬが、効果や意味が無く、やらされているという気持ちにならないように、よく精査しながら進めていかないといけないと思った。
- (委 員) ペットボトルの問題は、舞鶴市では当たり前であることが、他の市では違うということ。さらに、一連の審議を経て、これから舞鶴市が取り組むべきことが具体的になったと思う。

(委員) 審議の過程で、「ごみ」への対応では、地域の力が必要になるということであらためて感じる事ができた。

(委員) 市町村、地域、その中の家庭、個人、という小さな単位がどのような取り組みをするかということで、大きな変化が生まれるということを確認した機会になったと思う。

(委員) 高齢者にとってごみ処理は難しい問題であり、特にごみ出しが困難な単身高齢者への支援は大きな課題である。

また、不燃ごみの7種9分別を全市的に実施するとなると、広報が大きな問題になると思うので、市にはしっかりと検討してほしい。

(委員) 廃棄物の問題が、地域の問題、世界的な大きな問題だとあらためて思った。しかし、そうした一方で、今のやり方は本来違うのではないかという意見を聞くこともあった。

ごみ減量を推進していくため、全然違う面から意見を聞かせていただくことは市民として有意義な時間になると思う。

(委員) 世界中で起きている大きな動きとして『SDGs (サステナブル・ディベロップメント・ゴールズ)』、『持続可能な開発目標』というものが、国連を中心に世界中で取り組みが進められている。

この審議会で議論したことは、世界的な視野で見ても非常に重要なポイントを議論しているのだという自負を持って、皆さんから、地域に、あるいは世界に発信してほしい。

(会長) 地方消滅などと言われる中、地域が高齢化すると、排出困難者の問題などいろんな課題が生まれる。本審議会は、ライフスタイルの変化とごみ分別を結びつけて審議した先進的な事例であり、非常に有意義なものであったと感じている。

今後、答申内容については市民から様々な意見が出てくると思う。この答申の意味を身近なところから地域へ伝え、地域で感じたことを市へフィードバックするということを繰り返すことで、舞鶴市のよりよいごみ減量施策へと繋がっていくことを期待する。

世界でも、『SDGs』を始めとしたごみ減量に向けた大きな動きが起こっており、日本でも新たな方針を検討しているところである。こうした情勢の変化を意識し、生活そして職場の中で活動して、感じられたことをフィードバックしていただきたい。

この審議会は非常に活発に議論が行われて、ある種先進的な、また、定番が無いような課題に果敢に取り組んできた素晴らしい審議会であったと思う。

(了)